

IV-31

自然・歴史資源に対する住民の認識に関する研究 — 仙台市元宮城町地区を対象として —

東北大学工学部 正員 ○小林眞勝
東北大学工学部 正員 稲村 肇

1. はじめに

宅地開発や市街地の再開発等による新住民の比率が高くなる現象は急成長地域には共通して見ることが出来る。本研究の対象地もその最たる地域の一つである。地域が持つ自然・歴史資源に対する認識が新旧住人で相違することは当然のことと思う。自然・歴史資源と言ってもその対象は広く一概には捉え切れない感じがする。地形・気象・風土等は長年の積み上げで生じたものであり、目に見える物には神社・仏閣や自然景観等、目に見えない物には人の営みや風習などがある。

本研究は自然・歴史資源に対する認識を探り地域開発の際の着眼点、手法の開発の基礎的資料とすることを目的とする。

2. 研究の対象地域

本研究の対象地域は仙台市の北西に位置している（図-1）。仙台市と昭和62年11月1日に合併した元宮城町は総面積 259km²（旧仙台市は 237km²）と広大であり、森林が81%を占めている。都市計画区域は市街化調整区域88.5%、市街化区域が11.5%と成っている。人口は仙台市との合併や新興住宅の開発等により急激に増加傾向を示している。しかし、世帯当たりの人数は減少傾向を示しており核家族増加を示している（図-2）。

3 意識調査の概要

調査は潜在意識からの発想で自然・歴史資源に対する認識を記入する方式とした。調査対象地域は仙台市青葉区宮城地区全域である（図-1）。調査表の記入者は1町内会3～4枚とし、以下の町内会の会長・副会長・総務等の三役に携わる方々をお願いした。

宮城地区町内会長連絡会（連合町内会）：8

連合会未加入町内会：2

総町内会数：52（総世帯数/11,177戸）

平成5年1/15頃から随時連絡を取り各連合町内会長宅に直接受け取りに行く方法を取った。未加入の町

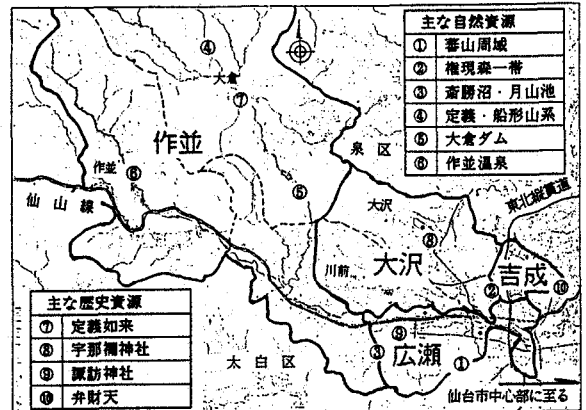


図-1 調査対象図・主な自然・歴史資源

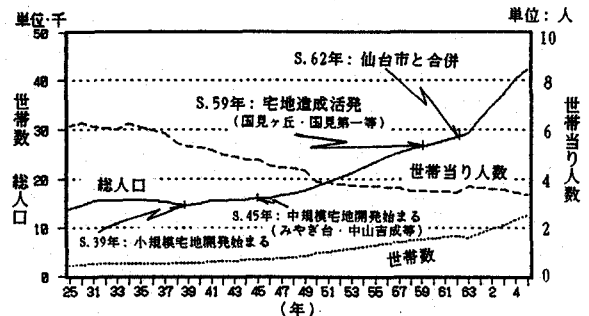


図-2 人口と増加要因事項

表-1 調査区域と居住年数表

居住年数	吉成	広瀬	大沢	作並	合計
10年未満	7 30%	22 59%	10 42%	4 11%	43 35%
10～19年	10 43%	3 8%	3 13%	1 3%	17 14%
20～29年	3 13%	1 3%	0 0%	2 5%	6 5%
30～39年	1 4%	4 11%	1 4%	6 16%	12 10%
40～49年	1 4%	2 5%	0 0%	5 13%	8 7%
50年以上	1 4%	5 14%	10 42%	20 53%	36 30%
合計	23 100%	37 100%	24 100%	38 100%	122 100%

内会にあっては郵送にて届、直接回収した。

4 調査結果

回収は 122枚（回収率：78%）であり、地区別・居住年数別の回収状況を表-1に示す。

調査対象地域の状況は吉成地区が新興住宅地、広

瀬・大沢地区が新旧混在地域、作並地区は古くからの地域である。

以下質問項目別に報告する。

(1)地域での行事で特筆するもの

諏訪神社は1位であるが地区分析すると広瀬地区の割合が高く地域性に片寄りがあることが分かる。次いで弁財天であるがこれも同様に吉成地区のみである。続いて宇那禰神社も大沢地区と広瀬地区と同様のことが言える。定義如来は作並地区での認識が高い、次が地域行事で新興住宅地である吉成地区に高い認識を見ることが出来る。他の行事は地区毎の関心の度合いにより分散している(図-3)。

(2)保存すべき森林

蕃山が1位である。広瀬地区と大沢・作並地区で回答があり他の項目よりも多く表れている。蕃山は全地域で知名度が高い割には他地区からの回答が少ない。逆に認識を強く感じている地区は日常生活で目に触れることの多い場所である広瀬地区や遠隔の作並地区の住民が関心を示していることが注目出来る。次に高い認識は全域である、先の蕃山も包括する広範囲の回答で意味深い。他は権現森・斎勝沼・船形山・定義山・鎌倉山・吉成林など国有林の保存の答が目をつけた。保存すべき森林の意識は広瀬や大沢地区に分布する山並(国有林等)に関心を示していることが分かる(図-4)。

(3)元宮城町を代表する自然・歴史的資源

定義如来が1位であった。分析すると全地域からの回答があり広く住民に浸透していることが分かる。次は斎勝沼・広瀬川・蕃山・諏訪神社・大倉ダムと続いている。ここで注目することは斎勝沼・広瀬川・大倉ダム等で示す様に水辺に対する関心が高いことである。

4. 考察

本研究により元宮城町の自然・歴史資源は多種多様であるにも関わらず、知名度の高いものが意識の中に元宮城町を代表する祭や行事・保存森林・自然・歴史資源が具体的に分かったこと。第二に地域の関心度の高さにより調査事項の順位を左右したこと。第三には旧仙台市に隣接している地域は仙台七夕に代表するように元宮城町より旧仙台市に対する潜在意識が高い様に見られたこと。第四には自宅の近くの行動が高く特に広瀬川や地域行事等の関心が高か

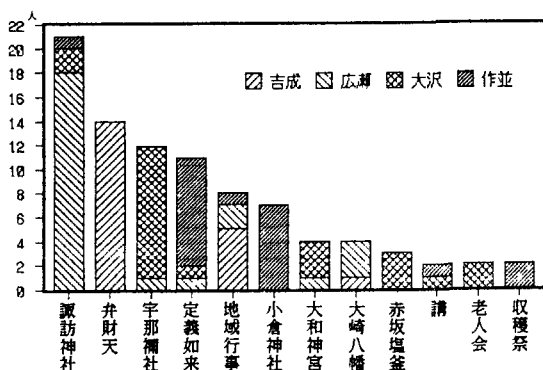


図-3 特筆する行事

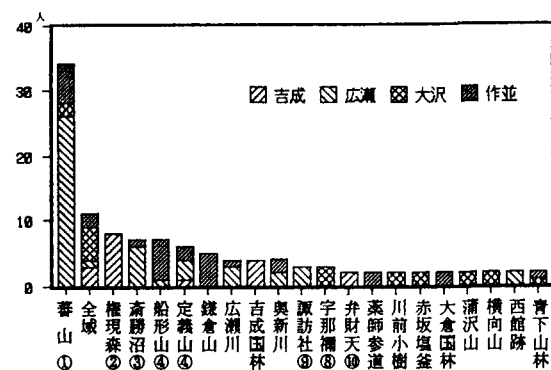


図-4 保存すべき森林

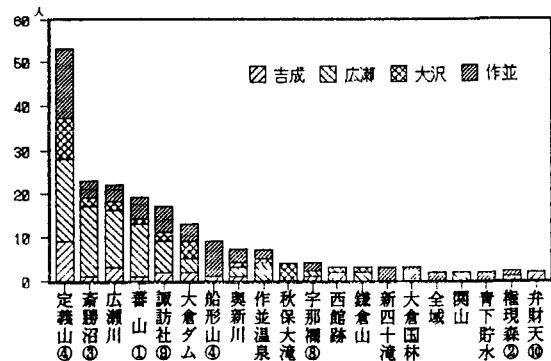


図-5 代表的な自然・歴史資源

ったこと。今回は全域調査が主体であったが今後は各地区での調査が必要と思う。最後に本研究の調査に協力を惜しまなかった宮城地区町内会長連絡会長の田中美知男氏と仙台市広瀬市民センターの相沢良雄氏と郷土史家の庄子勝衛氏を始め他に多くの方々からの御助言や資料等を頂きましたことを御礼申し上げます。